



「理想の手帳」を求めて文具業界に参入

マークスは、デザイン性の高い文具を手がけている企業だ。2012年に日本文具大賞グランプリとグッドデザイン賞を受賞した手帳&ノートブランドの「EDiT (エディット)」は、たくさんのファンに愛されている人気シリーズ。また、文具・小物などの収納スペースを備えたノート「STORAGE.it (ストレージ ドット イット)」や、和紙素材で作られたカラフルなマスキングテープ「masté (マステ)」などの商品も広く知られている。

同社は1986年、女性誌などの編集者だった高城和彦氏によって設立された。当初は編集制作会社だったが、1995年から文具の製造・卸事業にも進出。

「『使いたいと思える手帳が、この世にない』と感じたのが、文具を作り始めたきっかけでした。当社には製本や印刷、用紙などの知見があったので、理想の手帳を、いっそ自分で作ってしまおうと考えたのです」(高城氏)

最初に製品化されたダイアリーでは、スケジュールが一目で分かるよう、日付を横軸に、時間を縦軸にとった

「バーチカルタイプ」を採用。今でこそこうしたレイアウトは珍しくないが、当時の日本製ダイアリーとしては画期的だった。また巻末には、5カ国語の会話集や海外主要都市の地下鉄路線図など、海外旅行・出張時に役立つ情報も掲載。編集制作のノウハウを生かし、利用者が必要とする情報をコンパクトに収めた。

「文具専門メーカーの製品を見ると、製本の具合や紙質といった『品質』を重視するところが目立つように思います。もちろん、ダイアリーを作る上で、それらはとても大切な要素。ただ、利用者にとっては『機能』も重要なのです。そこで当社は、『利用者が情報をまとめたり整理したりしやすい(=編集しやすい)手帳』をという発想から、ものづくりを始めました。それが受け、ヒットにつながったのかもしれない」(高城氏)

「編集の発想」が企画や販売にも役立つ

現在では編集制作事業から手を引き、文具事業に特化しているマークス。しかし「編集のDNA」は、現在でも

社内に息づいているという。

「例えば、数年前に『マスキングテープ』が流行し始めた時期には、『小物に貼ってかわいくアレンジする』『お菓子のパッケージや手帳に貼って楽しさを演出する』といった活用法を書籍にまとめて発行し、商品と併売しました。モノだけでなく、マスキングテープの楽しさという『コト』を同時に提供することで、付加価値を高めたわけです。

編集という仕事は、たくさんの情報を整理し、組み合わせることで、読者に分かりやすく届ける作業です。そのエッセンスは、文具づくりにもそのまま生きていますね。商品を企画する際には、利用者のニーズや世の中の流行をきめ細かくつかもうと努力しています。また、マスキングテープの事例のように、いくつかの戦略・手法を組み合わせることで商品の価値を高めるのも、当社の得意分野です。こうした背景があるため、社員には編集者と同様に、『情報感度の高さ』を求めています」(高城氏)

日本発コンテンツを海外に広める

マークスは、2008年にパリに現地法人、2012年にはフランクフルトにセールスオフィスを開設。現在、卸分野における海外売上比率は15%程度だが、今後はさらなる

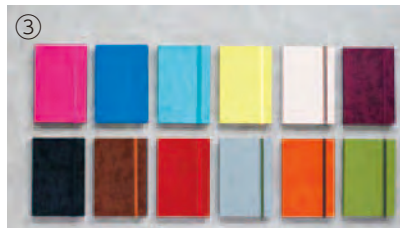
拡大を目指す。

「今、狙っているのは中国市場です。来年には、中国でも現地法人と店舗を開設したいですね。また、中国沿海部ではEC化率が3割を超えていると言われており、中国市場用通販サイトの整備も進める方針です」(高城氏)

日本の消費者は目が肥えており、商品の質にこだわる。そのため、日本で人気の商品はレベルが高く、海外でもヒットが期待できるというのが、高城氏の見立てだ。

「当社の店舗では、他社の商品も多数扱っています。例えば、パリの直営店『マークスタイル トーキョー パリル・マレ店』や、今年4月にオープンした旗艦店『マークスタイル トーキョー GINZA SIX店』では、自社商品の比率は2~3割程度。日本各地の魅力的な商品も取りそろえ、お客さまが楽しめる店作りを目指しています。

これまで日本を牽引してきた家電製品などの業界は、現在苦しんでいます。そんな中、日本を引っ張っていくのは、コンテンツや、デザインに関わるソフトの力ではないかと思うのです。当社のポリシーは、『日本の“素敵”で世界に“快適”を』というもの。文具をはじめとする日本らしいコンテンツを海外に発信することで、世界中の人を喜ばせたいですね」(高城氏)



- ①デザインダイアリー。カバー内に小物を収納可能だ
- ②直営店には、日本各地から取り寄せた魅力あるデザインギフトや文具が並んでいる
- ③カラフルでシンプルなデザインが多くのファンに愛されている手帳
(2ページの写真)「マークスタイル トーキョー GINZA SIX店」店長の島田氏と、日本発のクールで機能的な文具を、世界に発信しているマークス代表取締役の高城和彦氏

職員から～取材を終えて～

上質なデザインをまとった文具を主力商品に据え、事業拡大を続けるマークス。優れた製品・技術・サービスや事業プランを評し、公社創立50周年記念にて『奨励賞』を受賞。これまで公社のニッチトップ育成支援(知的財産戦略導入支援)、知的財産セミナー、外国出願費用助成金など幅広くご利用いただきました。活躍のフィールドは、今後ますます広がりをを見せていくことでしょう。
(知財センター 小野将太)

株式会社マークス

(会社概要)

代表者：代表取締役 高城 和彦

資本金：8000万円

従業員：257名(2016年7月現在)

所在地：世田谷区太子堂1-4-24 萩藤ビル

TEL：03-5779-7550 FAX：03-3413-3261

URL：<http://www.marks.jp/>